

批判的人種理論という現代の文化戦争

塚本 江美

はじめに

1970年代に弁護士、法学者、活動家によってアメリカ合衆国（以下、アメリカ）で生まれた学問、かつ学際的な社会運動と解釈される批判的人種理論（Critical Race Theory、以下 CRT）が2020年の大統領選挙を前に共和党およびその支持者らによって批判、攻撃の対象となり注目を浴びた¹。2020年から人種教育に関する法案が全米で次々と制定され、2022年3月までに合計35州で、CRTに関連する教育の禁止・制限をする法案に署名または検討がされた²。結果として、教育の場で、人種を巡る抗議活動や黒人市民への警察の残酷な行為について子どもの疑問に教師が説明できないような状況を生んだと指摘される³。

CRTは批判的法学研究（Critical Legal Studies、以下 CLS）から発展した考え方で、1950年代後半から展開された公民権運動を経て、法制度の人種的平等の根拠が与えられたにも関わらず、人種主義の歴史的遺産としての社会的不平等、つまり教育、医療、所得、資産などにおける格差是正の難しさを学際的に説明する枠組みと理解される⁴。CRTは「平等理論、法的推論、啓蒙的合理主義、憲法

1 フォックス・ニュースは2021年1～6月に1800回以上 CRT について言及した。Lis Power, "Fox News' Obsession with Critical Race Theory, by the Numbers," Media Matters for America, July 14, 2021. Accessed July 31, 2022. <https://www.mediamatters.org/fox-news/fox-news-obsession-critical-race-theory-numbers>.

2 禁止令や制限は州により内容が異なる。Rashawn Ray and Alexandra Gibbons, "Why Are States Banning Critical Race Theory?" Brookings, November 2021. Accessed June 25, 2022. <https://www.brookings.edu/blog/fixgov/2021/07/02/why-are-states-banning-critical-race-theory/>; Kiara Alfonseca, "Map: Where Anti-critical Race Theory Efforts Have Reached," ABC News, March 24, 2022. Accessed August 11, 2022. <https://abcnews.go.com/Politics/map-anti-critical-race-theory-efforts-reached/story?id=83619715>.

3 Ray and Gibbons.

4 本稿では racism は主に現実に存在する差別を意味する「人種差別」と訳し、構造的概念を強調する場合「人種主義」と訳す。Richard Delgado and Jean Stefancic, *Critical Race Theory: An Introduction*, 3rd ed. (New York: New York University Press, 2017), 3-4; Cady Lang, "President Trump Has Attacked Critical Race Theory. Here's What to Know about the Intellectual Movement," *Time*, September 29, 2020). Accessed November 17, 2023. <https://time>.

の中立原則など、リベラル秩序の基盤そのものに疑問を投げかける」特徴を持つ⁵。

他方、1989年、ハーバード大学法学教授のランドール・ケネディはCRTを支持する研究者に対し、相関する二つの命題、人種的排除と人種的独自性に関して疑問を投げかけ、少数派の学者による研究の価値が過小評価されやすいという主張、人種的抑圧を経験した少数派の学者は特別な洞察力を持つという主張へ異議を唱えた。より大きな枠組みで問題を捉える重要性を訴え、自滅的議論に陥らないよう警告を発した。ケネディはこの時、異論が政治的に利用される懸念を示し、CRTの学術的意義も認めている⁶。

アフリカ系アメリカ人のジョージ・フロイドが2020年5月25日、白人警察官による不適切な拘束により殺害されたことを裏付ける動画が拡散され、その抗議が瞬く間に広がり人種を越え、Black Lives Matter（以下BLM）はさらに隆盛した⁷。フロイドの死をきっかけに人種関係への関心が社会で一層高まり、ワシントン大学客員准教授で多文化教育、多様性トレーニングを実践するロビン・ディアンジェロの著書 *White Fragility* が爆発的に売れた⁸。2019年の必読本に選ばれた、ボストン大学反人種差別研究センター創設者・所長のイブラム・ケンディの著書 *How to Be an Antiracist* も2020年の同時期に飛躍的に販売が増加してい

com/5891138/critical-race-theory-explained/.

- 5 Delgado and Stefancic, 3.
- 6 Randall L. Kennedy, "Racial Critiques of Legal Academia." *Harvard Law Review* 102, no. 8 (1989): 1745-1819; Ralph Richard Banks, Randall Kennedy, John H McWhorter, Jason L. Riley, Christopher F. Rufo, "Critical Race Theory: On the New Ideology of Race," Manhattan Institute, Online Forum, December 16, 2020. Accessed June 25, 2022. <https://www.manhattan-institute.org/critical-race-theory-new-ideology-race>; 大沢秀介「批判的人種理論に関する一考察」『法学研究』69巻12号（1996年）、67-93頁。
- 7 BLMは2012年2月26日、黒人男子高校生の射殺が正当防衛として認められ、射殺したヒスパニック系男性が無罪になったことをきっかけに興った人種差別抗議運動。創設者は黒人女性活動家3人。Black Lives Matter, Accessed October 19, 2022. <https://blacklivesmatter.com/what-matters-2020/>; "George Floyd Death: Violence Erupts on Sixth Day of Protests," *BBC*, June 1, 2020. Accessed October 19, 2022. <https://www.bbc.com/news/world-us-canada-52872401>.
- 8 「白人の脆弱さ」とは、人種問題に冷静に向き合えず人種的ストレスに耐えられない状態を指す。著書販売数は2020年3-4月(18,492部)、5-6月(437,289部)で約23倍増加。Robin DiAngelo, "White Fragility," *International Journal of Critical Pedagogy*, vol 3, no. 3 (2011):54-70; DiAngelo, *White Fragility: Why It's So Hard for White People to Talk about Racism* (Boston: Beacon Press, 2018); Jemima McEvoy, "Sales of 'White Fragility'- and Other Anti-racism Books- Jumped over 2000% after Protests Began," *Forbes*, July 22, 2020. Accessed October 19, 2022. <https://www.forbes.com/sites/jemimamcevoy/2020/07/22/sales-of-white-fragility-and-other-anti-racism-books-jumped-over-2000-after-protests-began/?sh=3f2ee146303d>.

る⁹。何れも人種差別反対を訴える内容で、著者の白人女性（前者）と黒人男性（後者）が、人種問題に向き合い分析をしている。

このような反人種差別への大衆の注目が一層高まる中、その反動が同時に起こった。反動を全国的に煽り伝播させた背景には、2020年9月22日、当時トランプ大統領が発令した大統領命令¹⁰の影響も大きい（次期バイデン大統領は2021年1月20日就任初日、当命令を無効にした¹¹）。当時トランプ大統領は保守派層の声に応えるように、分断的概念、人種または性別のステレオタイプやスケープゴートを含む、と解釈される多様性および包括的教育訓練を連邦契約から除外した。CRTは分断的概念と見なされたのだ¹²。こうして学術的議論だけでなく文化戦争として政治的議論へと顕在化したのが2020年からのCRT論争の事情である。

日本でのCRT研究は、法学者が生成・発展した背景や専門家間の議論の考察、意義の検討などを行っている¹³。本稿では伝統的言説の基盤を持つ実践に着目する。言説の重要性を認識しつつ、一般の議論や現場の実践・成果が政治を動かす制度変革へ影響力を持つことから、学問の枠を超え大衆を扇動し、政治的闘争を目論んだ社会的論争に注目し、CRTを政治的に潰そうとする力によって現代に創られた論争の実情を明らかにすることを試みる¹⁴。前述のケネディの冷静な視点を参照しつつ、CRTの特質と現代の論争の実態を掴むため、独自に分類し

9 2020年3-4月（8,358部）、5-6月（334,375部）で約40倍の販売増加。McEvoy; “Must-Read Books of 2019, How to Be an Anti-racist” *Time*. Accessed October 19, 2022. <https://time.com/collection/must-read-books-2019/5724579/how-to-be-an-anti-racist/>; Ibram X. Kendi, *How to Be an Antiracist* (London: Bodley Head, 2019).

10 Executive Order 13950 of Sep 22, 2020, Combating Race and Sex Stereotyping, 85 FR 60683-60689 (September 28, 2020).

11 Executive Order 13985 of Jan 20, 2021, Advancing Racial Equity and Support for Underserved Communities Through the Federal Government, 86 FR 7009-7013 (January 25, 2021).

12 Janel George, “A Lesson on Critical Race Theory,” *American Bar Association*, vol.46, no.2 (January 11, 2021). Accessed June 25, 2022. https://www.americanbar.org/groups/crsj/publications/human_rights_magazine_home/civil-rights-reimagining-policing/a-lesson-on-critical-race-theory/.

13 大沢、67-93頁；松垣伸次「批判的人種理論（Critical Race Theory）の現在」『同志社法学』63巻2号（2011年）、929-982頁；木下智史「『批判的人種理論（Critical Race Theory）』に関する覚書」『神戸学院法学』26巻1号（1996年）、199-230頁。

14 ホブズボウムは旧来の慣行と対比し人工的に創られた伝統とナショナリズム等との深い関与に留意し民族的現象を適切に探究すべきと言ったが、本稿では旧来の議論と対比し、現代に政治的意図を持ち歪んだ解釈を展開する論争を「創られた論争」と呼ぶ。Eric Hobsbawm and Terence Ranger, eds., *The Invention of Tradition* (Cambridge: Cambridge University Press, 1983), 1-14/ エリック・ホブズボウム、テレンス・レンジャー編、前川啓治ほか（訳）『創られた伝統』（紀伊國屋書店、2010年）、1-28頁。

た視点で整理し考察する。伝統的特質と現代の論争を呼ぶ社会的実践の要素を兼ね備えた視点として①CRTの原点、既得権益解体を目指す「法学的探究」②差別構造へ加担する個人への問責としての「心理学的探究」、現代の論争の実態を考察すべく③社会の反応としての「政治的闘争」という枠組みで整理する。なぜ現代のCRT論争は創られたと言えるのか、その論争が持つ意義や人種関係の現在地を探究する研究の一考察を紹介する。

I 法学的探究：交差性（intersectionality）とは？

CRT誕生の背景には、伝統的な法学を批判するものとして1970年代に生まれたCLS¹⁵、および1967年頃に発生し、1973年頃にかけてアメリカ各地で発展したラディカルフェミニズム運動などが挙げられる¹⁶。1970年代にアメリカで興隆した学派・運動であるCLSがもたらした意義として、「法が政治と異なるという伝統的な憲法学の前提自体を批判し、憲法学の議論の中に、どのような社会を達成しようとしているのかという政治を持ち込むことを可能にした」ことが指摘される¹⁷。主たる目的は、法学研究・教育の変革を通して社会変革を実現し、既成の左翼の法学研究・教育を乗り越えることが目指された¹⁸。

その精神が引き継がれつつ1970年代半ばに誕生したCRTの背景には、弁護士、活動家、法学者がほぼ同時期に、1960年代の公民権運動時代の目覚ましい進歩に行き詰まっていると懸念を抱いたことにあった。デリック・ベル、アラン・フリーマン、リチャード・デルガードら法学研究者は、目に見えにくい微妙な人種主義と戦うために新しい理論と戦略が必要であることを認識し、1989年夏、ウィスコンシン州マディソン郊外の修道院で最初の会議を開催し議論を重ねた。広く多様な分野から学者、学生、活動家など様々な立場の代表が集まり、講演やパネ

15 CLSとCRTの繋がりについて、1980年代半ば頃までCRTはCLSに傾倒したが、問題点が指摘され分離した。問題はCLSに依拠すると伝統的なリベラリズム法学がすべて否定され、それは公民権運動の重要な貢献を無視することに繋がる。CRTは抑圧の基礎としての階級と人種の間には違いがあるという立場で、CLSは伝統的な法学に批判的であるものの白人に対する白人の批判の枠内で行われているためエリート主義的であると指摘されている。大沢、67-93頁。

16 ラディカルフェミニズムの運動は1973年頃に終焉したのではなく、多様に変化しジェンダー概念を生み出し、ジェンダー史を切り開く可能性を秘めた運動、思想であったと指摘されている。栗原涼子「ニューヨークにおけるラディカルフェミニズムの運動と思想」『学苑』（総合教育センター・国際学科特集）835号（2010年）、76-88頁。

17 松井茂記「批判的法学研究の意義と課題」デヴィッド・ケアリズ（編）、松浦好治（訳）、松井茂記（訳）『政治としての法—批判的法学入門』（風行社、1991年）、298頁。

18 船越資晶『批判法学の構図：ダンカン・ケネディのアイロニカル・リベラル・リーガリズム』（勁草書房、2011年）、i頁。

ルセッションなどが行われた学際的な取り組みである¹⁹。

CRTの提唱者の一人、キンバリー・クレンショーは、ハーバード大学法科大学院在籍時に仲間と共にCRTのワークショップを立ち上げた²⁰。クレンショーはCRTの中心的概念である交差性について、1989年の論文で雇用の場における黒人女性の判例を挙げて説明した²¹。その後、交差性を用い、有色人種の女性に対する暴力構造について説明している²²。以下に交差性の一般的な定義を引用する。

交差性は、人種、階級、ジェンダー、性別、国、能力、民族性、年齢などのカテゴリを分析ツールとして捉え、相互に関連し、互いを形成していると見なす。交差性は、世界、人々、人間の経験における複雑さを理解し、説明する方法である²³。

黒人女性はフェミニスト理論あるいは反人種差別政策の言説から除外されることが時として起こる、とクレンショーは述べた。人種と性別の2つの要素の相互作用が正確に反映されていないことが多く、既存の分析構造では黒人女性の経験を十分に説明できず、交差する経験は人種差別と性差別を足したものよりも大きいと主張する。黒人女性が原告の裁判において交差性を司法に包摂させる難しさを指摘する²⁴。

1964年の公民権法第7編（Title VII）は雇用差別の禁止を規定した連邦の基本法で、人種、肌の色、宗教、性別、または国籍に基づく雇用差別を禁止した²⁵。この法律を根拠に争われた黒人女性の裁判の例を以下にまとめる²⁶。

交差性の例証の起源といわれる、自動車会社のゼネラルモーターズを相手取っ

19 Delgado and Stefancic, 3-4.

20 “Kimberlé Williams Crenshaw’s Influential Career,” Masterclass, Mar 2, 2022. Accessed August 24, 2022. <https://www.masterclass.com/articles/kimberle-crenshaw#writings-by-kimberle-williams-crenshaw>.

21 Kimberle Crenshaw, “Demarginalizing the Intersection of Race and Sex: A Black Feminist Critique of Antidiscrimination Doctrine, Feminist Theory and Antiracist Politics,” *University of Chicago Legal Forum*, vol.1989, issue 1, article 8 (1989): 139-167.

22 Kimberle Crenshaw, “Mapping the Margins: Intersectionality, Identity Politics, and Violence against Women of Color,” *Stanford Law Review*, vol.43, no.6 (1991): 1241-1299.

23 本稿筆者訳。Patricia Hill Collins and Sirma Bilge, *Intersectionality*, 2nd ed. (Medford, MA: Polity Press, 2020), 2.

24 Crenshaw, “Demarginalizing the Intersection of Race and Sex,” 139-140.

25 Civil Rights Act of 1964, Public Law 88-352, 78 Stat.241 (July 2, 1964).

26 判例の解釈は以下を参照。Crenshaw “Demarginalizing the Intersection of Race and Sex.”; Mary Elizabeth Powell, “The Claims of Women of Color under Title VII: The Interaction of Race and Gender,” *Golden Gate University Law Review*, vol.26, issue 2, article 6 (1996): 413-436.

た裁判では、5人の黒人女性従業員は人種と性別に基づく差別により会社に「最後に雇用され、最初に解雇された」と異議を唱えた²⁷。1964年より前に黒人女性を雇用せず、不況の折に黒人女性従業員を真っ先に全員解雇したため、1976年に集団訴訟は起こされたのだ。裁判では、人種と性別の混合の訴えは公民権法第7編の範囲を超えているため、人種か性別のどちらかを選択しなければならず、結果、訴えは2つに分けられたが、性差別は公民権法第7編の成立より前に女性が雇用されていたことにより却下され、人種差別は別の黒人男性による訴訟に集約されてしまった²⁸。

人種差別、性差別及び相互作用の訴えが初めて認められたのは、1977年、テキサス州ハリス郡ヒューストンの50歳の黒人女性が元雇用主である非営利組織ハリス郡コミュニティアクション協会を相手に争った訴訟である²⁹。秘書として雇われた黒人女性のジェフリーズは、何度も昇格申請を提出するも認められなかったと訴えた。新しく掲示された2つの昇格公募において、黒人男性と白人女性が昇格したため原告の主張は当初認められなかったが、後に、第5巡回区連邦控訴裁判所での訴えで「性プラス (sex-plus)」差別が認められ、最終的に相互作用の訴えが認められたのである³⁰。

性プラス差別は1971年の判例³¹で確立された争点で、正当なビジネス上の理由が示されない限り、雇用主は幼子を持つ女性を雇わない方針の下で幼子を持つ男性を雇うことはできないことが示され、性差別に加え中立的要素（この場合、幼子を持つこと）に基づく差別が法廷で認められた。この1971年の判例により、ジェフリーズの裁判は公民権法第7編で禁じた人種と性別の2つの要素で差別された黒人女性の判例における論理的妥当性が見直され、人種と性別の相互作用の訴えの主張が認められた。一方、複数の差別要素がすべて加算される訳ではなく、相互作用の訴えが認められたのは、白人男性を基準として鑑みた2つの要素に留まった³²。

後に、公民権法第7編の範疇を超えて、40歳以上の人に対する雇用差別を禁じる労働法³³で守られる年齢も相互作用の訴えの一つの要素として認められた³⁴。

27 *DeGraffenreid v. General Motors Assembly Div., etc.*, 413 F. Supp. 142 (E.D. Mo. 1976).

28 *Ibid.*; Crenshaw "Demarginalizing the Intersection of Race and Sex," 141-143; Powell, 417-419.

29 *Jeffries v. Harris County Community Action Ass'n*, 425 F. Supp. 1208 (S.D. Tex. 1977)

30 *Ibid.*; Powell, 419-420.

31 *Phillips v. Martin Marietta Corp.*, 400 U.S. 542 (1971).

32 Powell, 420-423.

33 Age Discrimination in Employment Act of 1967, Public Law 90-202, 81 Stat. 602 (December 15, 1967).

34 *Good v. U.S. West Communications*, 1995 WL 67672 (D. Or. 1995); Powell, 434.

また、法廷における白人男性という基準は、2人の白人男性がアファーマティブ・アクションによって昇格が阻まれたと訴えたケース³⁵にみられるように、単一体として見なされており、白人であることと男性であることの相互作用的逆差別が認められたことはない³⁶。

クレンショーが1989年に交差性の課題を提示する前に、その源流は1970年代に既に裁判で成果を上げつつあったことが確認された。アメリカの主流社会の中心的存在として見なされる白人男性を基準として比較し、社会経済的機会が不当に奪われる差別構造の複雑性を交差性は説明した。

交差性はこれまでの反差別理論に新しい視点を加え、不可視化されていた人々の立場を言語化し、人種問題の議論を深化させた。社会運動を牽引する言説として交差性が与えた影響は小さくない³⁷。全米に広がったBLMや世界中に広がった#MeToo運動はいずれも黒人女性活動家により始められている³⁸。CRTの伝統的特質を象徴する交差性が包摂する視点は少数派だけのものではなく、その変革的影響力の大きさは現代の論争を巻き起こす要素を持ち合わせていることを示唆する。

II 心理学的探究：マイクロアグレッションとは？

次に、人種主義が社会で永続化される仕組みを理解するための視点としてCRTの研究者らが注目するマイクロアグレッションについての議論を整理する。この概念は、絶え間なく累積的に黒人へ向けられる自動的、無意識的な見下しとして、1970年代、精神科医のチェスター・ピアスにより紹介された。ピアスはこの見下しを黒人の尊厳や希望への攻撃と呼び、これは白人が持つ優越感を前提とする精神的態度から生じていることを指摘し、日常的に蔓延する状況や与える影響について問題提起した³⁹。2000年代にはコロンビア大学教授のデラルド・スーが社会的少数派の人々を包摂した理論へ発展させ、意図的・意識的か否かに関係

35 *Wilson v. Bailey*, 934 F.2d 301 (11th Cir. 1991).

36 Crenshaw "Demarginalizing the Intersection of Race and Sex," 142-143; Powell, 424.

37 Barbara Giovanna Bello, "Intersectional Perspectives on Social Movements," *Global Dialogue*, October 09, 2022. Accessed November 17, 2023. <https://globaldialogue.isa-sociology.org/articles/intersectional-perspectives-on-social-movements>.

38 BLMについては脚注7参照。#MeToo運動は若い黒人女性を支援する非営利団体を設立(2006年)した黒人女性活動家によって始められた。Just Be Inc. Accessed November 17, 2023. <https://justbeinc.wixsite.com/justbeinc/home>.

39 Chester M. Pierce, "Psychiatric Problems of the Black Minority," in *American Handbook of Psychiatry*, 2nd ed. S. Aneti and G. Caplan, eds., (New York: Basic Books, 1974), 512-523.

なく、気づきにくい、あるいは気づかれにくい差別的な見下す言動を分類化した⁴⁰。マイクロアグレッションによるストレスは継続的で蓄積的という特質があり、精神だけでなく身体へも影響を及ぼし、心血管疾患、高血圧症、呼吸器系疾患、肝硬変、肥満、糖尿病などの症状を引き起こすことが研究で裏付けられた⁴¹。

一方、この概念に対し社会学者のブラッドリー・キャンベルとジェイソン・マニングは被害者意識を助長させると批判した。彼らは道徳文化の変遷を考察し、19世紀のアメリカでは名誉の文化が存在していたが、法、秩序、商業の成長が尊厳の文化を促進し20世紀半ばから後半のアメリカでその存在を確認できるが、マイクロアグレッションの台頭で被害者の文化が生まれたと指摘する。名誉とは、一種のステータス、他人からの評価で与えられる地位で肉体的な勇敢さと誰にも支配されない意思が伴う。一方、尊厳は内在的な価値で、世間の評判はあまり重要ではない。被害者の文化とは、ステータスへの懸念、微妙なものへの敏感さ、および第三者への大きな依存を特徴とし、意図的でなくても侮辱に不寛容で、権威や一般の注意を引いて対抗する文化であるという。この文化は大学で定着しつつあると指摘する。例えば大学への出願時、学業成績ではなく、親の失業などの逆境を克服したことを強調する例を挙げ、自分自身が達成したことよりも、困難に注意を向けていると指摘する⁴²。ほかにも大学での過熱した病的な展開、学生の認知力を歪めるという批判⁴³、被害者意識を広め、政治家がそうした被害者を悪用し、ファシズムへの道を歩む可能性があるという批判などがある⁴⁴。

多様性の文脈での概念として知名度を上げつつあるが、行き過ぎた風潮、心理的弱体化や道徳的混乱は社会として懸念材料であるし、一般化した議論は慎重にすべきであろう。しかし1970年代初め、ピアスは萎縮させられた黒人の自尊心

40 ① Microassaults ② Microinsults ③ Microinvalidations の3つの分類化。Derald Wing Sue, *Microaggressions and Marginality: Manifestation, Dynamics, and Impact* (Hoboken, New Jersey: John Wiley & Sons, Inc., 2010), 8-10.

41 Derald Wing Sue, *Microaggressions in Everyday Life: Race, Gender, and Sexual Orientation* (Hoboken, New Jersey: John Wiley & Sons, Inc., 2010), 148-149/ デラルド・ウィン・スー、マイクロアグレッション研究会(訳)『日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション人種、ジェンダー、性的指向: マイノリティに向けられる無意識の差別』(明石書店、2020年)、243-244頁。

42 Bradley Campbell and Jason Manning, "Microaggression and Moral Cultures," *Comparative Sociology*, vol.13, no.6 (2014): 692-726.

43 Greg Lukianoff and Jonathan Haidt, "The Coddling of the American Mind," *The Atlantic*, September 2015. Accessed August 28, 2022. <https://www.theatlantic.com/magazine/archive/2015/09/the-coddling-of-the-american-mind/399356/>.

44 William R. Klemm, "Victimology: The New Way to Play the Blame Game," *Psychology Today*, March 29, 2016. Accessed June 25, 2022. <https://www.psychologytoday.com/us/blog/memory-medic/201603/victimology-the-new-way-play-the-blame-game>.

を取り戻すことの重要性を訴えた。さりげなく軽視する言動をとる白人とそれに合わせてやり過ごす黒人との日常に存在する社会的コードに言及し、蔓延する心理的差別を指摘した。個人の経験は些細でも個人の集合体が社会であり、その影響力は計り知れない⁴⁵。こうした理解は、周縁化された人々の経験、現実の可視化を促し、彼らの尊厳を守ることに繋がる。1970年代から社会での認知は進んだ。心理的抑圧を解放し、相互理解と信頼を構築するために有効な一歩となる視点であろう。交差性と同様、既存の世界観や価値観へ疑問が投げられた一方で、被差別経験のない多数派に理解され難い現実があることが確認された。

III 政治的闘争：反 CRT で団結を図る保守派層との闘い

最後に CRT を巡る政治やメディアの言動に注目する。とりわけ保守派層は西洋社会を破壊する極左イデオロギーと揶揄し、CRT が悪意や憎しみを生む思想であるとし、否定的な宣伝を巧みに展開した⁴⁶。CRT が提唱されてから約 40 年となる 2020 年、保守派は人種関係を分断させる言説であると政治的課題を掲げ、公教育において CRT を禁止し、教師が教室で人種の問題について話し合うことを厳しく制限するという事態を招いた。CRT への激しい批判はメディア、政治、教育の領域で繰り広げられた⁴⁷。

2017 年にオックスフォード英語辞典に追加された語彙 woke（目覚めた）はアフリカ系アメリカ人英語に由来し、人種の偏見と差別への警告を意味する形容詞として特に BLM を通じて広く使用されるようになり⁴⁸、目覚めた資本主義（woke capitalism）という言葉も生んだ⁴⁹。保守系シンクタンク、マンハッタン政策研究

45 Pierce, 512-523.

46 Bryan Anderson, "Critical Race Theory Is a Flashpoint for Conservatives, but What Does It Mean?" *PBS News Hour*, Updated November 4, 2021. Accessed June 25, 2022. <https://www.pbs.org/newshour/education/so-much-buzz-but-what-is-critical-race-theory>; David Bukay, "Intersectionality, the Leftist Plague Destroying Western Society - Part 1" *Modern Diplomacy*, July 11, 2020. Accessed June 25, 2022. <https://moderndiplomacy.eu/2020/07/11/intersectionality-the-leftist-plague-destroying-western-society-part1/>.

47 Stephen Sawchuk, "What Is Critical Race Theory, and Why Is It under Attack?" *Education Week*, May 18, 2021. Accessed June 25, 2022. <https://www.edweek.org/leadership/what-is-critical-race-theory-and-why-is-it-under-attack/2021/05>.

48 Katy Steinmetz, "The Oxford English Dictionary Just Added 'Woke.' It's Older than You Might Think," *Time*, June 25, 2017. Accessed September 20, 2023. <https://time.com/4830959/oxford-english-dictionary-woke/>.

49 社会正義に目覚めた資本主義を意味する造語。キャンセルカルチャー（特定の個人や企業を社会的に糾弾し、追放しようとする運動）との関連が指摘される。Ross Douthat, "The Rise of Woke Capital," *The New York Times*, February 28, 2018. Accessed June 25, 2022. <https://www>

所のクリストファー・ルフォはCRTへの批判記事を2020年夏頃から『シティジャーナル』で連載し始め⁵⁰、反CRT運動、より新しい表現では、反覚醒 (anti-woke)運動を展開した。CRTは破壊的で憎しみに満ちた考え方であるというメッセージが中心で、CRTが定義し促進する「平等」は再定式化されたマルクス主義に過ぎず危険なイデオロギーである、と政治的に扇動する⁵¹。ルフォはCRTへの不安は親たちから草の根で広がったと強調するが⁵²、不安を煽るようなメディアの意図的な試みも否定できない。

ワシントンD.C.に拠点を置く保守系シンクタンク、ヘリテージ財団のウェブサイトでは、2020年10月のインタビュー掲載を皮切りに特設ページでCRTへの猛烈な批判が展開された⁵³。同財団はCRTと解釈されるもの、例えばBLMによる抗議、学校のLGBTQクラブ、連邦機関や組織での多様性トレーニング、大学のキャンパスでのフリースピーチなどを問題視する。一部の親が2018年にフロリダ州ブロード郡パークランドの高等学校で発生した銃乱射事件はブロード郡の規律代替プログラム⁵⁴に原因がある、と非難する例を挙げ、CRTは破壊的で、立憲共和制の基礎となる基本的な考えを拒否していると政治的な主張を展開した⁵⁵。ほかに、保守派非営利団体ネバダ家族同盟はCRTを子どもに教えてい

nytimes.com/2018/02/28/opinion/corporate-america-activism.html; Mitch Kokai, "Cancel Culture and Woke Capitalism," The John Locke Foundation, November 23, 2020. Accessed June 25, 2022. <https://www.johnlocke.org/cancel-culture-and-woke-capitalism/>.

50 Christopher F. Rufo, "Publications," *City Journal*. Accessed September 21, 2023. <https://www.city-journal.org/person/christopher-f-rufo?top=false&limit=12&page=2&people%5B%5D=46138&dates=&sort=desc>.

51 Christopher F. Rufo, "The Courage of Our Convictions: How to Fight Critical Race Theory," *City Journal*, April 22, 2021. Accessed June 25, 2022. <https://www.city-journal.org/how-to-fight-critical-race-theory>.

52 Joseph A. Wulfsohn, "Christopher Rufo Says the Fiery Education Debate Will Go Far beyond Virginia," *Fox News*, November 2, 2021. Accessed June 25, 2022. <https://www.foxnews.com/media/christopher-rufo-education-virginia>.

53 "Critical Race Theory," The Heritage Foundation, 2022. Accessed June 25, 2022. <https://www.heritage.org/crt>.

54 プロミス・プログラムと呼ばれる特定の軽罪を犯した生徒が逮捕される代わりにリハビリテーションに参加するもの。オバマ政権下で全国的称賛を受け、同じ罪を犯した白人学生と比較して黒人学生が不釣り合いに逮捕されてきたとして黒人コミュニティで大きな支持を得た。Scott Travis and Larry Barszewski, "Promise Program- Slammed after Parkland Shooting- Should Be Scrapped, Commission Says," *South Florida Sun Sentinel*, August 14, 2019. Accessed June 25, 2022. <https://www.sun-sentinel.com/local/broward/parkland/florida-school-shooting/fl-neighborhood-douglas-promise-program-recommendation-20190814-zlgdygkehralpnrjvyufbnc3ny-story.html>.

55 Sawchuk.

ないか監視するため教師へのボディカメラ着用を提案していたり、保守派の人々は過去のティパーティ⁵⁶のような政治的運動を目論んでいたりと、と様々な敵意ある言動が指摘されている⁵⁷。

2020年9月17日、当時のトランプ大統領は、アメリカ史に関するホワイトハウス会議で、次のように語った（一部抜粋）。

私たちの大学の学生は批判的人種理論に圧倒されている。これは、アメリカは邪悪で人種差別的な国であり幼い子どもたちでさえ抑圧に加担しており、社会全体を根本的に変革しなければならないというマルクス主義の教義である。批判的人種理論を私たちの子どもたちの学校に押し込み、職場では訓練が課され、友人、隣人、家族を引き裂くために展開されている。（中略）批判的人種理論、1619プロジェクト、アメリカの歴史に対する改革運動は有毒なプロパガンダでありイデオロギー上の害毒で、除去されなければ私たちを結びつける市民の絆が絶たれるだろう。私たちの国を破壊するだろう。そのため私は最近この偏向したイデオロギーで作られた訓練を連邦政府から可能な限り強力な方法で禁止した⁵⁸。

1619プロジェクト（The 1619 Project）は、ジャーナリストのニコール・ハンナ・ジョーンズが中心となり進めてきた取組みで、奴隷制やアフリカ系アメリカ人の貢献を物語の中心に置き、アメリカの歴史像の再構成を目指す⁵⁹。ハンナ・ジョーンズは、自身が若いころに学んだ歴史を振り返り、教科書、テレビ、地元の歴史博物館から得たイメージでは、アフリカ系アメリカ人は存在せず、ひいき目に見ても彼らはあまり重要でなく、最悪の場合は無視されているものであったと指摘する。自身が受けた教育を通して示された世界は白人の世界であったと回

56 2009年から始まったオバマ政権を批判する保守派のポピュリスト運動として知られる Tea Party Movement のこと。

57 Interview of Tyler Kingkade by Terry Gross, "Uncovering Who Is Driving the Fight against Critical Race Theory in Schools," NPR, June 24, 2021. Accessed June 25, 2022. <https://www.npr.org/2021/06/24/1009839021/uncovering-who-is-driving-the-fight-against-critical-race-theory-in-schools>.

58 本稿筆者訳。"Remarks by President Trump at the White House Conference on American History," National Archives Museum, Washington, D.C., September 17, 2020. Accessed June 25, 2022. <https://trumpwhitehouse.archives.gov/briefings-statements/remarks-president-trump-white-house-conference-american-history/>.

59 バージニア植民地に最初に奴隷としてアフリカ人が連れて来られてから 400 周年を記念し 2019 年 8 月『ニューヨークタイムズ誌』に掲載され始まったプロジェクト。The New York Times Magazine, August 18, 2019.

顧する⁶⁰。

時勢に乗って現代のCRTの議論は法曹、学術の枠を超え、身近な議論や実践として展開されたが、アメリカのアイデンティティへの攻撃と捉えられ、誇張された政治的対立軸が創造され大衆に広まった背景が確認された。異なる世界観を分かち極論を展開するメディアに扇動されながら、子どもの教育はその戦いの激戦地にされた背景が浮き彫りになった。

一方でCRTが誤認された政治的レトリックであっても、大衆的論争として注目を浴びたこと自体、成果につながる前進と言えるのかもしれない。例えば、アメリカの歴史として広く認識されてこなかったジュンティーンズ⁶¹の急速な全国的認知の高まりは、トランプ大統領の過激な発言が後押しした白人至上主義への反発や人種差別を非難する反人種差別運動を伴い人種の垣根を越えて広まったBLMの貢献は大きい⁶²。

現実的な障壁は、例えば、法律上の隔離が解消された1954年のブラウン判決⁶³は平等主義の理想に基づく成果というより、白人の利益との合致が要因として指摘されたが⁶⁴、道徳的な理解だけで目的達成は難しいことである。不可視的領域に切り込みパラダイムシフトを眺望するCRTと主流社会の利益をどう合致させられるのか、長い道のりが予想される。

おわりに

1970年代より学際的研究、実践を蓄積するCRTが2020年代、歪曲解釈を伴い政治的論争的となった。これを本稿では旧来の議論に対し創られた論争と呼び考察した。CRTの特質とその実践の社会的影響力から現代に物議を呼ぶ実例

60 Nikole Hannah-Jones, Caitlin Roper, Ilena Silverman, and Jake Silverstein, eds., *The 1619 Project: A New Origin Story* (New York: One World, 2021), preface.

61 June nineteenthの混成語。奴隷解放宣言から2年半後の1865年、北軍兵士が終戦後に奴隷が解放されたニュースを持ちテキサス州ガルベストンに上陸した6月19日を祝うもの。2021年6月17日、連邦の祝日とする法律が成立。Juneteenth National Independence Day Act of 2021, Public Law 117-17, 135 Stat. 287 (June 17, 2021); Juneteenth.com. Accessed June 25, 2022. <https://www.juneteenth.com/>.

62 Justin Wm. Moyer, Petula Dvorak, and Michael E. Ruane, "Juneteenth Celebrations Marked by Marches, Protests and Added Significance," *The Washington Post*, June 19, 2020. Accessed November 18, 2023. https://www.washingtonpost.com/local/juneteenth-celebrations-george-floyd-protests/2020/06/19/859ff0f4-b229-11ea-8758-bfd1d045525a_story.html.

63 *Brown v. Board of Education of Topeka*, 347 U.S. 483 (1954).

64 ベルが提唱した利益の収束理論。Derrick A. Bell, Jr., "Brown v. Board of Education and the Interest-Convergence Dilemma," *Harvard Law Review*, vol.93, no.3 (1980): 518-533.

として「法学的探究」「心理学的探究」の各章で整理し、創られた論争として政治的に対立が展開された背景と実態を「政治的闘争」の章で提示した。

CRT は法曹界に源流を持ち、目に見え難い人種主義構造を解明する挑戦で、巧妙に社会に埋め込まれた差別と闘うためにはカラーブラインドの手法では不十分という認識に立ち、不可視化された被抑圧者を主流社会へ参画させようとする重層的な学問であり社会運動であり、実践であることが確認された。一方、CRT の社会的影響力に対する政治的な激しい抵抗や真意の曲解が確認された。

現代の分断的論争は文化戦争として、古い議論の蒸し返しではなく、対立する両者は新しい論客や支持者を増やし、支持する専門家も批判する学者も目覚めた大衆も対抗する活動家も、意図せずとも社会の在り方をより身近な議論として再考させる機能を備えた。反対保守派は大きな政治的、社会的威力を発揮してきたものの、理論に裏打ちされた実践の蓄積を持つ CRT は現代の BLM が示すように地道な社会的成功を重ね、連帯を拓けてきた。居心地の悪い文化戦争で多様性の本質的な課題「違い」を際立たせていても、人種関係に遠慮なく踏み込んだこの民主的闘ぎ合いは一縷の望みとして意義づけられる。この人種関係は社会の理解や構造的平等の実現において進展途上にあり、引き続き論争に注視し探究することを筆者の課題としたい。

ABSTRACT

Culture Wars over Critical Race Theory in the Modern Era

Emi Tsukamoto

Critical Race Theory (CRT), introduced as an academic concept and interdisciplinary social movement in the United States in the 1970s by lawyers, legal scholars, and activists, was heavily criticized, attacked, and denied by Republicans and their supporters leading up to the 2020 presidential election. It once again attracted attention and became the target of ridicule. Although CRT has given the grounds for racial equality within the legal system through the rise of the civil rights movement in the 1960s, even today, it has not yet solved social structural inequality based on race. While it has been considered framework for an interdisciplinary explanation of the difficulty of eliminating inequality, it has been heavily criticized by conservative experts and their supporters.

This paper examines the arguments within the culture war over CRT in the modern era, which tend to be seen as setbacks in race relations within American society. It focuses on the central concepts of CRT and reviews their backgrounds, important arguments, challenges, and advancements found in the fights over racial division within CRT in modern times. While CRT research in Japan examines the background of the creation and development of legal research, discussions among experts, and their significance, this paper focuses on the background and practice that brings up the controversial debate that is the “invented” or distorted controversy over CRT in modern times, which has spread beyond purely academic discussions to political struggles involving the general audience.

As the key to grasping the nature of CRT and the reality of the CRT controversy, this paper considers the crucial arguments in the following three unique classifications. (1) “Legal inquiry” aimed at dismantling social bias and discrimination as the starting point of CRT, (2) “Psychological inquiry” as responsibility for individuals who are complicit in the structure of

discrimination, and (3) Organizing the discussion within the framework of “political struggle” as social resistance. This paper aims to clarify what the “invented” controversy over CRT in modern times is, explore what it means, and explore the current state of racial relations in America.

Finally, this paper illustrates that the CRT controversy transcended academic boundaries and expanded to the masses as a cultural and political struggle. Rather than rehashing old arguments, the opposing sides increased the number of new commentators and supporters as a familiar debate. Whether they are the CRT scholars or those who criticize them or woke vs anti-woke people, both sides have the function of reshaping what society should be in an intentional or unintentional manner. That is how it can be interpreted from a macro perspective. Even though it is an uncomfortable cultural struggle that highlights differences as the essential issue of diversity, this democratic struggle that goes a step further into racial relations is uplifting. The fight against the anti-woke movement continues amid the need for social consensus building in which diverse individual perspectives are peacefully included.

